慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	大企業に於ける兼業の発達（二、完）
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	三田学会
Publication year	1914
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.8, No.3 (1914. 4) ,p.255(1)- 276(22)
JaLC DOI	10.14991/001.19140400-0001
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19140400-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彼の日清戰爭後露、獨、佛三國干渉の起るや、日本は止るべき時なるを知って、三國の要求を容れて、遼東半島を還附し、勝つて兜の緒を締めて、十年後好時期を得て露國を破り、舊年の怨を報いたではありませんか。日本の行ふ所は斯の如くであると答へた。斯く論破して彼の獨逸人を感服せしめた」と教授一流の雄辯を揮はれ、斯くて塾長教授を中心として、雜談に夜を更かし、十一時頃解散したり。

◎第六十八回理財學會例會　十一月二十一日午後六時より三十四番諸堂に於て第六十八回例會を開催す。會計檢査官工藤重義氏は「相續稅に就いて」なる演題の下に、我國現行の相續稅法の缺點を指摘論評し、福田教授は「經濟統計の不振を論じて利潤統計の研究に及ぶ」と云ふ演題の下に、我國に於て經濟統計の振はざるを評し、大に統計の經濟學上必要なる所以を說き、殊に利潤統計は、株式會社の研究に對し最も必要なりとて滔々二時間に亙る大雄辯を振ひて十一時散會す。

三田學會雜誌　第八卷第三號

論說

大企業に於ける兼業の發達（三、完）

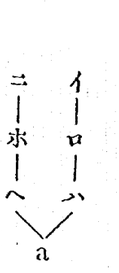
氣賀勘重

四

今熟々近世の大々的企業が如上の原因よりして種々の事業を兼營するに至る其兼業の方法を觀れば主として從來の本業と前後相關聯せる產業卽ち生產の經過上、本業の前位又は後位に在るの產業を兼營するに外ならざることと前述の如く、而して是れ此種の兼業に對して縱面的企業合同(Vertical Trust)の名稱の附與せらるゝ所以なれども、併し市況の變動に對する自家の安全の保證と生產的技術上に於ける幾多の便利利益の獲得との兩目的に出づる大企業の兼業は決して一種の原料

生産並に其加工精製と云ふが如く、然かく單純なる縱面的兼業のみに非ず。原料品の生産に從事して其産出物の一部分を原料の儘に販賣すると共に他の一部分の原料の加工を營み、原料品と半製品並に精製品とを併せて販賣するの策に出づるものもあれば、又一方には種々なる原料品を生産して之を一種の精製産物に仕上ぐるを事とするものあり。又時に生産の經過上左程密接の關係なきも販賣の便宜上よりして幾多の生産を兼營することなきに非ず。要するに兼業の方法は種々雜多にして一方より觀れば所謂縱面的兼業たると共に、又一方より觀れば、横面的併行的兼業たる場合甚だ少からざるなり。然れば最近「ヘックシェル」氏は此近世的兼業の形式を圖形に依りて左の如く五種に大別せり。(E. F. Heckscher: Die industrielle Integration in der Zeitschrift für sozialwissenschaft, 1913. Heft 10.)

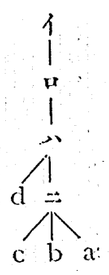
第一



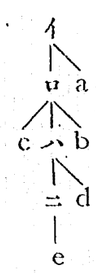
第二

(此圖に於て「イ」「ロ」「ハ」等の文字は各一階段の産業の種類を示しａｂｃ等の文字は各其企業の販賣する生産物の種類を示す。卽ち第一の場合には「イ」「ロ」「ハ」「ニ」の四階段の産業が

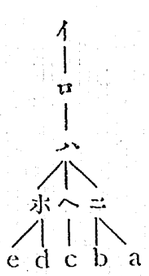
第三



第四



第五



一企業の下に縱面的に合同せられて結局ａなる一種の生産物のみが販賣せらるゝ場合、又第二の場合は「イ」「ロ」「ハ」の三階段の産業と「ニ」「ホ」「ヘ」の三産業とが併行兼營せられ更に其雙方の終局の生産物がａなる一生産物に結合精製せられて販賣せらるゝ場合、第三の場合は第一の場合と等しく「イ」「ロ」「ハ」「ニ」が兼營せらるゝも、「ハ」の階段の生産物より一部分がｄとして賣却され、更に「ニ」の階段を經てａｂｃの生産物が同時に生産販賣せらるゝ場合を示す。以下之に倣ふ詳細に實際の事實を點檢し來らば兼業の種類は尙ほ幾多の變態を示す可しと雖も、一企業の下に於ける諸産業結合の形式は大略此五種に盡きたりと云ふを得可し。依て此に此等各種の形式に就て其性質と實例とを略説せん。

第一

此種類は例令ば原料生産と半製品製造の兼營又は半製品と其精製の兼營等の如

く前後二三階段の産業を兼營するものより、原料生産、其加工精製竝に販賣をも一手に兼營するものに至るまで苟も一定の原料を一定の製品に仕上る其間の幾多の産業を兼營するの企業一切を網羅するものにて最も純粹なる縱面的兼業なり。換言すれば兼營する産業の種類の數の多少如何に論なく其營む所は何れも直系的に前後關聯するものにして其生産販賣する所は結局最初の原料より生ずる一種の産物に外ならざるを常とし、縱面的合同の最も標本的なるものたり、將た近世的兼業の最も純粹なるものたるなり。而して此種の兼業は極端に之を實行する場合に於ては原料の生産より精製品の小賣販賣に至るまで一手に之を營むに至る可く、其間何等の交易商業を介入せしめずして生産及び販賣に伴ふ一切の利潤を一企業の下に收む可きなり。試に例を鐵工業に取りて之を説明せんか。一個の企業が自己の鑛山を所有して採鑛に從事し、其採掘せる鑛石は一切之を自家專用の鐵道又は汽船に依りて自家の製鐵所に送り、此處に之を溶解精製するのみならず、其製鐵をば更に之を鋼鐵に製造し、其鋼鐵は更に之を鋼板、鐵條其他の鋼鐵製品に仕上げ、更に其上に自家の販賣所又は代理商店を各地方に設けて仲間商人の手を借ることなく其製品を直接に消費者に賣渡すの策を取るが如きは卽ち是なり。

斯の如くすれば當該生産物の生産經過全般の上に生ずる一切の利潤は一手に之を收め得可きのみならず、其經過の間に生ずる市況變動の危險は悉く之を避くるを得可く、從て企業の經營頗る安全なるを得可しと雖も、併し此種の兼營を斯の如く極端に實行するに對しては、技術上の便宜、市場の範圍等幾多の障害の之を制限するものあり。從て世間未だ實際に斯の如く完全に之を實行したるの實例を見ず。此種の直系的縱面的兼營は多く全生産經過中の二三階段を兼營するものに過ぎずと雖も、幾多の企業中には殆ど完全に近き兼營を實行するに至れるものもなきに非ず。例令ば自家用の鑛石全部を自家所有の鑛山に仰ぎ、自家專用の鐵道と汽船を有して冶金製鐵より製鋼、ロール精製の作業を一手に兼營する米國の製鋼「トラスト」の如き、將た又瑞典、ノルランド」の一製材會社が自家用の原料産出の爲め廣大なる森林を買收して林業經營と製材とを兼營せんとする如き正に其例なり。其他製紙企業が林業と製紙原料の製造を兼營するが如き、製糖會社が甘蔗園

の經營と粗糖精製糖の製造を兼營するが如きも亦其一例にして、單に前後二三階段の產業を兼營する實例に至りては各種の工業方面何れも其實例に乏しからざるなり。

第二

此種類に屬する兼業は第一の種類の一變態と稱す可きものにして、卽ち此場合には結局生產販賣せらるゝ終局の產出物は前者と等しく單に一種類なるも、唯だ其終局生產物に要する原料補助材料が數種に亙り、而して其數種の原料補助材料が自家に必要なる丈け全部自家の企業に於て生產せらるゝの相違あるなり。換言すれば生產の經過上前位に屬する部分に於て二種若しくは數種の產業が相竝行して兼營され、而して竝行せる產業の生產物が結局に於て同一企業の下に一種の生產物に仕上げらるゝなり。此種の兼業中最も普通なるは原料の自家生產と共に燃料又は原動力の自家產出を兼營するの方法にして、例令ば製鐵又は製鋼を本業とせる企業が採鑛冶金の事業と共に自家用の採炭及び發電事業を兼營するが如し。本業たる一生產物の生產の爲に數種の原料補助材料の生產に從事するは

近來大々的企業の發達に伴ひ益〻增加するの現象にして、畢竟自家產業の經營を原料補助材料の供給者より獨立ならしめんとする盡力の必然の一結果と云ふ可く、單に原料補助材料の生產に伴ふ利益を壟斷せんとするの目的のみに出でたるものに非ざれども、併し又數多の場合に於ては自家營業の獨立上毫も斯る兼業の必要なく唯〻營業上の利潤增加の目的のみよりして此兼業の企畫實行せらるゝことなきに非ず。而して斯る場合に於ては技術上殆ど何等の關係なき數種の事業の副業として併行兼營せらるゝあるを見る。例令ば英國の「カッドブリー」製菓工場に於て其使用總人員の大半を包裝製箱等に使用するが如き、又大なる彈藥製造所が同時に製紙工場を兼營するが如き、將た又麥酒製造所が製壜及び製函の工場を兼營するが如き皆其類なり。

第三

此種類の兼業は前二種に反し、生產の經過上同一源泉に出づる數種の生產物の精製販賣を兼營するものにして、外形上正に第二種の正反對を示せり。主生產物と共に幾多の副產物を生產販賣するものは卽ち是なり。

由來一種の生産に際して幾多の副産物を生ずるの産業は其類決して少なからず。唯其副産物は多くは利用方法存せざるが故に經濟上顧られざるの狀ありと雖も、若し一朝其利用の途發見せられんか其産出が一種の營業と爲る可きこと復た多言を要せざる可し。然るに近世の科學的進歩は過去幾百年間全然不用視せられたる幾多の物件をして頗る重要なる經濟的財貨たるに至らしめたるものあり。是に於てか從來委棄せられ防害物視せられたる幾多産業の副産物にして貴重なる利用物件と爲るもの益〻多きを加へ所謂副業的生産に力を注ぐの企業益〻多きを加ふると共に其副産物を加工精製するの業務も亦益〻多きを加へ來り副産物加工精製の兼業亦從て增加するに至る。蓋し人文進歩の自然の結果にして將來に於ける此種兼業の發達の餘地は益〻大なるものある可し。瓦斯生産業が「コークス」の販賣を兼ぬるは勿論輓近に及んで更に「コールター」「クレシン」「アニリン」染料炭素片等の製造等益〻多くの副業的生産を兼營するに至れるは正に其一例なる可く、其他製紙工場に於ける「アルコール」製造の兼營、漁油製造に於ける魚肥の産出等殊に化學工業の方面に於ける其實例は蓋し少なからざるなり。加之、一定の品質を尊重する生産物の生産業に於ては所要品質の生産に適せざる劣等の原料又は半製品を生ずる場合に其劣等餘剩の原料又は半製品を轉用して主産物以外の他の生産物製造を營むの場合も亦決して少なしとせず。例令ば製鐵製鋼の工場に於て製鋼に適せざる程の劣等なる銑鐵を利用するの方法として屋根鐵板其他の劣等なる製品の製造を兼營するが如し。要するに此種の兼業は多くは所謂る廢物利用の目的より起るものにして、其副産物の加工精製の兼營は又往々該副産物を原形の儘に販賣又は輸送するの不便困難なるより起ることも少なからず。何れにしても各種の兼業中、技術的發達に伴へる最も自然的なる現象と云ふ可きなり。

第四

此種類に屬するものは第一種又は第二種に屬するものと等しく縱面的兼業にして然かも此等の兼業の如く前位の産業の生産物を全部悉く自家の精製加工の用に供することなく、前位階段の生産物の一部分を原料又は半製品の儘にて販賣するものなり。換言すれば第一種及び第二種の兼業が企業内部に於て兼業を營みつゝ然かも外部の購買者に對しては純然たる專門的企業者なるに反し、外部に對

しても亦兼業者として原料品、半製品並に精製品の生産販賣を營むの兼業的企業たるなり。例令ば炭鑛採鑛及び鐵道を兼營せる製鐵企業が其産出せる鐵鑛、石炭、銑鐵並に鋼鐵を販賣するのみならず、其一方には又運輸の業を營み、且つ鋼鐵板、鋼鐵線、機械等の製造販賣をも兼營する上に、更に進んでは造船及び鐵橋工事等をも引受くるが如し。其他新聞社が其印刷工場を充分に利用するの目的より爾餘各種の印刷業を營むが如き、製紙工場を兼營する彈藥製造所が製紙の販賣を爲すが如き、發電工場を有する紡績工場が其餘剩電力販賣の爲に電力供給並に電燈事業を兼營するが如き皆是なり。

本來近世的大企業の下に於ける兼業は主として原料補助材料の享得上又は自家生産品の加工販賣上自家の獨立を確保するの目的に出でたるものにして、從て自家産出の原料又は半製品の全部を加工精製且つ販賣してこそ能く其本來の目的を達し得るの次第なるに、然るに今や斯の如く生産經過の各階段に於ける生産物を逐次それぞれに販賣するとせば、其兼業は正に本來の目的を沒却し、兼業なき專業時代と何等選む所なく、唯雜然數業を兼營するの狀態に陷れるものと云はざるを得ざる可し。否な斯る兼業は各階段の生産業の上に起る一切の市況變動を蒙るものとして、將た又各階段に於て生産上並に販賣上前位及び後位の生産業者に依賴するの地位に立つものとして其危險と不安は專業的企業よりも一層大なるものなきを得ざる次第なり。然るに一度縱面的兼業の擧に出でたる幾多の企業が實際上多くは此種の兼業に陷れる所以のものは何ぞや。他なし、前後各階段の生産をして相互正確に適合せしめて然かも尙ほ技術上充分の利益を收むるの實際甚だ困難なること卽ち是なり。蓋し交易區域擴大し、分業又發達せる當今の經濟場裡に於ては原料又は半製品の生産にあれ、將た精製品の製造にあれ苟も一個の生産業を經營して技術上將た經濟上相當の利益を收めんが爲には其經營は相當の大經營ならざる可らず。經營の規模を相當に大ならしむるに非ざれば充分なる生産力を發揚し得ざるは專業の場合と兼業の場合とを問はず等しく共通の原則なるに、然るに生産の經過上前後各階段に位する諸産業に就て各適當なる其生産經營の規模を觀れば、其大小は前後必ずしも相適合するものに非ず。原料の生産を充分の大規模とすれば、其産出原料全部の加工は一企業一經營の事業とし

て過大に失することあり。半製又は精製の事業を相當に大規模に經營するとせば其一企業一經營の所要原料のみの生産を事とする原料又は半製品の生産事業は或は過小に失することあり、將た或は過大に失することなきに非ず。例令ば一大採炭事業又は採鑛事業を經營して其生産物全部を自ら利用加工せんとする瓦斯事業、又は製鐵事業は原料の過大に苦む場合多かる可く、如何なる大造船所も自家用の鋼鐵製造のみを目的に製鋼事業を兼營せんとせば其製鋼事業は製鋼事業として充分に其産出力を伸張し得る程の大規模たるを得ざる可く、又之と反對に一個の大製絲工場が自家用の原料産出の爲に桑園養蠶の業を營むとせば其耕耘養蠶の事業は集約的經營を必要とする一個の農業的經營として其規模餘りに過大なるを免れざる可きが如し。要するに前後各階段の生産業にはそれ〴〵に適度の經營の規模ありて此適度以上に餘りに之を擴張するも、將た又餘り之を過小ならしむるも何れも充分なる生産力を發揮するを得ざるものあり。而して此適度の規模は前階段の一事業の生産額恰も後階段の一事業の所要材料全部を滿たして過不足なしと云ふが如く、然かく正確に適合せざるなり。是に於てか上來所述の原因よりして縱面的の兼業を營むに至れる大企業は一方に於て其兼營せる各階段の生産業をして各充分に其生産力を發揮せしめんが爲に、自家用額以外の原料品及び半製品をも生産販賣せしむるに至る。畢竟企業の經濟上必然の成行と云ふ可く第四種の兼業の起る所以卽ち此に存する次第なり。

併し縱面的兼業の困難に對する此解決法は決して常に策の得たるものと云ふを得ざるものあり。蓋し斯る兼業に在りては一面原料品半製品の供給者にして同時に精製品の生産者なるが故に、純精製業者に對しては原料品の供給者たると共に精製品供給上の競爭者たらざるを得ず。換言すれば原料販賣上の顧客をば精製上の競爭者の間に求めざるを得ざるなり。然るに如何なる生産業者も其原料を競爭業者に仰ぐは通例快とせざる可く從て其購入は可及的之を純粹の原料供給者よりするに勉む可きが故に、原料半製品の販賣上此種の兼業者は多大の困難に遭遇せざるを得ざる可し。故に此種の兼業は原料及び半製品の供給上多數の競爭企業の存する場合には經營頗る困難、實行亦甚だ容易ならざる可し。

然れども當該企業の規模實力が原料及び半製品の供給者として他の同業者の上

に嶄然傑出せる場合、殊に其供給の上に於て殆ど獨占的の地歩を占むるが如き場合には精製業の上に於ても原料供給上の其優勢を利用して覇者の地位を占め、能く其市場に最大の利潤を獲得するを得ることある可し。例令ば全國の鋼鐵供給を殆ど獨占せる製鋼所が自ら造船業又は機械製造業を兼營せる場合に於ては、其造船所機械製造所は原料の享得上至大の便宜を得て他の同業者に充分に對立するを得可く、場合に依りて原料の直上げ又は供給拒絶に依りて他の同業者を壓倒するも難からざる可きが如し。然れど斯る場合に於ては他の精製業者は事實上既に其原料供給者の支配の下に立ち其命に是れ從ふの外なかる可きが故に、結局其原料供給業の利益に支配せられて互に賣價其他の販賣條件を協定する企業聯合を組織するか若しくは相合併して事實上第一種又は第二種に屬する大々的兼業の一部分と爲らざるを得ざる可し。何れにしても此種の兼業の形式は生産組織變遷上に於ける過渡の一形式にして到底永く繼續し得可きものに非ざるが如し。

第五

其他世上には以上各種の縱面的兼業と反對に横面的の兼業を主とするもの卽ち種々雜多の精製品の生産を兼營する幾多の企業あり。其實例は服裝品の製造、家具家財の生産等直接日用品の製造工業に多く之を見る所なるが、比較的小規模の經營としては爾餘種々の製造業にも亦之を見ること少なからず。斯る雜種の兼業は技術上將た經濟上何等特種の利益あるに非ず。從て企業經營上秩序と熟練を尊重せずして只眼前の利益の爲に漫然兼業を試むる輕卒の擧の結果たる場合なきに非ずと雖も、詳に其發生の事情を考察すれば、其間又多少相當なる理由の此種の兼業を是認せしむるものなきに非ず。消費上相關聯する各種の商品を可及的一括して之を顧客に提供せんずる企業家の盡力は其一にして各種商品の間、時と場合に依り需要の增減消長を異にするの常なるが故に、諸産業の兼營に依り此需要の增減に應じて適宜に諸生産業の間に其資本と勞力を按排轉用し、依て以て當該企業全體の上に於て一部需要の變動に動かされざる平靜なる經營を持續せんとするの苦心盡力は其二なり。

就中、第一の盡力に出づる兼業は商業上に於て凡百の日用品を一店にて販賣する

彼の「デパートメント、ストーア」と等しく一に顧客の便宜を謀り之を吸收するを目的とするものにて、生産的經營上何等の技術的利益を有するものに非ず。故に小量の購買を爲す多數の購買者殊に直接消費者を可及的多數吸引せんとする場合に於ては專門的生産業に比して多大の利益ある可しと雖も、大量の卸賣を主とする生産業に在りては兼業の利益は全く之を認むるを得ず。殊に兼業の爲に多少の經費增加を生ずるが如き場合は一層其然るを見る。蓋し一時に多量の仕入を爲す者に在りては仕入先の一箇所なると數箇所なるとの別の如きは多く問ふ所に非ず。主として問ふ所は仕入價格の低廉と供給の正確如何に在る可ければなり。故に此種の兼業は例令ば自家製品販賣の爲に「デパートメント、ストーア」までも兼營する大工場の如く直接小賣までも兼營する企業又は販賣市場廣からず數業の兼營に依りて初て動力其他の原料補助材料を有利に使用し得可き大經營を營み得るが如き場合の企業には適合す可きも、大量貨物をそれ〴〵大經營的に生産せんとする場合には云ふに足るの實益なかる可きなり。

然れど第二の盡力に出づる兼業は之に反し、能く其目的を達し得るに於ては經營上多大の生産費節約を爲し得るものある可し。蓋し、需要の變動に伴へる經營の伸縮に際しては實際上利用し得可らざる幾多の資本及び勞力を生じ、其失費甚だ少なからざるものあるの常なるに、然るに此種の兼業は其餘剩生産力利用の途を開きて失費を利益に轉用せしむるものなればなり。故に此種の兼業は其生産に季節的繁閑の變動ある數種の産業を適宜排合して當該企業全體の上に繁閑の差を少なからしむること、例令ば冬帽子と麥稈其他の夏帽子の製造を兼營するが如き場合には頗る有利なる可しと雖も、季節的繁閑を異にせる數産業の間に勞力及び資本を流用し得るが如き場合は實際上甚だ少なく、從て此第二の盡力の目的は實際に達せらるゝこと頗る少なきの憾あるを免れざるなり。其他資本及び勞力の流用なきも數業の兼營に依り一方に不景氣の影響を他方の好景氣に依つて補ひ得可く、從て企業全體の上に景氣變動の危險を少なからしむるを得可しと爲すものあり。一見眞理なるが如くなれども、縱令ひ兼業とは云へ一企業の下に兼營し得るは多少關聯せる數業に過ぎず、然るに相關聯せる産業は概ね時を同ふして

同一の景氣の支配を受くること例令ば衣服襯衣帽子其他の服裝品の生産業が概ね同時に好景氣不景氣と爲るが如き次第なれば、此點に關しては兼業の利益は實に望少なきを免れずとす。

要するに輓近大企業の間に發達せる兼業の實體は以上五種の形式の外に出でず。而して此等の兼業は何れも單一なる企業卽ち一個の企業の下に行はるゝを通例とすれども、併し兼業を營む企業其物の形式を觀れば、必ずしも然らず。實質上單一なる企業にして表面上二個乃至數個の企業に分立せるものあり。一個の所謂る親會社が一個乃至數個の子會社を設立し、其子會社が更に幾多の孫會社を設立して其事業の一部を分掌せしむるが如きは卽ち是なり (Liefmann.: Kartelleu.: Trusts. Kapt. V.) 此場合に子會社及び孫會社が一に親會社の爲に親會社の計算にて其事業を經營するものなる時は、此等の會社は表面上分立せる獨立の企業なるも實際に於ては合して一單位を爲せる一企業に外ならず。而して近世の大々的兼業は此親會社子會社の組織に依り表面上分立せる企業として經營せらるゝこと少なからず。例令ば一大發電事業が幾多の電氣鐵道會社、電燈會社又は電力供給會社を設立經營し、一大鑛山會社が電氣會社を經營し、一大製鐵會社が採鑛會社、炭鑛會社機械製造會社等を設立經營するが如き皆是なり。此等諸會社の營業を見れば、それぞれ一個の專門業にして兼業と云ふ可らざるが如きも實際に於ては何れもそれぞれ外形を異にせる近世的兼業に外ならざるなり。而して斯の如く觀じ來れば近世の大企業に於ける兼業の發達は表面に表はれたよりも廣く且つ大なるを知る可し。

五

以上述ぶる所に依りて之を觀れば、近世の兼業は理論上之を極端に擴張し前後一切の生産經過を悉く一企業の下に遂行するを得ざる絕對の理由なきに拘らず、實際の關係上到底之を完成し得ざるものあり。而して完全に之を實行するを得ざる根本の原因は一言以て之を云へば、兼業を或程度まで擴張せる以上、更に之を擴

張せんとする時は其前位又は後位の兼業を生産上不利なる程度の過小なる經營と爲さゞる可らざるの必要に迫らる可きこと卽ち是なり。例令ば各造船所が製鐵業を兼營せんとせば其製鐵所は經濟不利なる過小の經營たるを免れざる可く、又各工場が其使用する機械の製造を兼營せんとせば其機械製造所は過小の經營たるを免れざる可きが如し。

此點より觀れば當該企業の規模益〻大なるに從ひ、其所要原料補助材料の生産又は生産物の加工を有利に兼營し得るの望は益〻大なる可く、從て企業の擴大益〻進むに從ひ兼業の發達は益〻大なるものある可し。故に今若し全世界の商船又は軍艦を一手に引受くるが如き大々的造船所ありとせば、造船所の製鐵又は採炭の兼營亦有利なるに至る可しと雖も、斯る大々的規模の經營は經濟上又は技術上の理由よりして容易に發生せず、從て兼業の發達も第一に此理由よりして或る程度に限定せらるゝなり。

之と同時に經營の擴大に伴ふ生産力の增加にも自ら限度ありて經營の規模一定の限度に達すれば其以上の擴張は生産力の上に見る可きの增加なきを常とするものなるが、此有利なる經營擴張の限度は各産業の間それ〴〻に相違せるものあり。而して經營擴張の此限度に達すること比較的速なる産業は之に達すること遲きものよりも兼業に便なるものあるなり。蓋し比較的小經營にして既に其生産力增進の最高限度に達する産業は他の企業と共に之を兼營すること然らざる事業よりも經濟上遙に容易にして技術上又之を監督すること容易なる可ければなり。

依是觀之、兼業の發達は第一には企業の規模其大を加ふるに從ひ第二には經營の擴張に伴ふて生ずる生産力の增進早く其極限に達するに從つて進歩す可く、之に反する場合には其發達の阻止せらるゝを見る可し。故に近世に於ける資本の激增と之に伴ふ大企業の增加は此發達を翼進せしむるものあると共に益〻大經營を有利ならしむる技術上の進歩は多少之を防ぐるあるを免れず。然れど技術上の進歩は單に大經營の利益を增さしむるものゝみに非ず、其一方には却て小經營を

有利に經營せしむるに適するものも少なからざれば此點に於ても又兼業の發達は翼進せらる可し。顧ふに將來に於ける此發達は未だ卒に豫知し難しと雖も、此發達が各企業の組織並に國民經濟の組織に及ぼすの影響は啻に學者のみならず一般企業家の大に注意す可き所なる可し。（完）

無盡會社必要論

星野半六

一

近來中產者の信用機關特に對人信用機關を完備せねばならぬと云ふ說が盛んで、人格の資本化と云ふ言葉が切りに稱へらるゝ樣である、我信用組合の如きは此目的を達せんとして起つたものであるが範を獨逸のライファイゼン式信用組合に採り、非營利主義を原則として居るので其理事の如きは殆んど無給で働かねばならぬ、されば信用もあり且つ世話好きで又餘暇のある隱居的人物があれば成功する事もあるが、要するに信用あり手腕ある人間を無給で使ふと云ふのは無理であるから、時としては組合理事の位置を利用せんとする羽織ゴロ的人物の喰物となる事があるのは誠に已むを得ざる次第である、されば政府は營利主義に依る庶民銀行を設立せしめて大に對人信用の發達を期する計畫であるそうだが、今期議會には法案が出なかつたので批評する事は出來ぬが其趣意丈けは頗る結構なる事